



## 外国出張報告書

平成 27 年 6 月 23 日

1. 出張国名      パラグアイ、ブルキナファソ
2. 出張月      平成 27 年 5 月～6 月
3. 出張目的      プロジェクト設計書策定のための調査および各種試験の継続（パラグアイ）  
住民組織による太陽光発電点滴灌漑営農の実証（ブルキナファソ）：A
4. 成果の概要

（パラグアイ）

2013 年農家植林地のユーカリ成長状況を確認した結果、プロジェクト設計書案成長シナリオより胸高直径および樹高が小さいことが分かった。また、ユーカリタマバチの寄生状況について調査した結果、寄生率の違いとユーカリの樹高、または胸高直径との間に有意差が認められ、ユーカリタマバチは幼木を好んで寄生していることが示唆された。

試験圃場において、ユーカリ植林による土壌養分への影響について調査した結果、ユーカリ植林に起因する土壌中カルシウム含有量の減少が認められた。

（ブルキナ）

太陽光点滴灌漑システムを導入したゲスナ村女性グループによる乾季における市場向け野菜栽培活動（作付面積 650 m<sup>2</sup>）の収穫および販売結果について調査した結果、トマト、キャベツ、タマネギの全体の収穫量は 2,465 kg、同販売量は 2,140 kg であり、また、同売上高は 291,800 FCFA（445 ユーロ）であった。

野菜栽培プロジェクトの水源として利用している深井戸施設の水利用実態を調査した結果、平均日給水量は 2,903 L であり、ブルキナファソの人力ポンプ付き深井戸施設設計基準である日給水量 6,000 L を大きく下回っていること（給水余力のあること）、また、生活用水の給水は 17～18 時に集中しており、灌漑利用（午前中の 7～10 時）と競合しないことが明らかとなった。